

鎌倉五山を訪ねて(第一位) 建長寺

ここは天下門



前方に総門が見える



ここが総門



天明三年(1783年)京都に建立されたものを昭和15年にここへ移築したもの



総門

建長寺は今から七百五十年前、鎌倉時代、建長五年（一二五三）、禅によって国の興隆をはかるため、執権北条時頼公の発願により、中国の禅僧・大覚禅師（蘭溪道隆）を開山として創建された、日本で最初の純禅の大道場です。建築は、総門・三門・仏殿・法堂・方丈が一直線に連なる中国の禅宗様式にもとづいています。

今の総門は、江戸時代、天明三年（一七八三）に京都・般舟三昧院で建立されたものを昭和十五年に移築しました。額「巨福山」（大きな福をもたらす寺）は、中国僧、一山一寧（一山国師）禅師（建長寺第十世）の筆です。

社寺建築研究会の皆さん



三門(重要文化財)

前方に見えるのは三門



安永四年(1775年)再建/重要文化財



三門
(国重要文化財)

三解脱門の略。空・無相・無作を表しこの三門をくぐることによつてあらゆる執着から解き放たれることを意味します。

開山様の言葉に「福山は揮て松関を掩じず無限の清風来たりて未だ已まずとあり、建長寺はあらゆる人々（修行者）に門を開放している事を表しています。

楼上には、五百羅漢（修行を完成させた人）を安置しています。

この建物は江戸時代・安永四年（一七七五）に万拙碩誼和尚などの努力によつて再建されました。創建当初は三門後方左右に大坐禅堂、大食堂がありました。













仏殿(重要文化財)

前方は仏殿/重要文化財



1647年、芝増上寺にあったものをここに譲り受けたのだという



仏殿
(国重要文化財)

建長寺の本尊・地藏菩薩を安置。北条時頼公と開山大覚禪師（蘭溪道隆）の衆生済度の願いが込められています。毎月一日・十五日の祝聖、二十三・二十四日の開山例月忌、釈迦三仏忌、開山忌などの法要がここで行われます。現在の建物は、創建当初より四代目のものといい、東京・芝・増上寺にあった徳川二代將軍秀忠公夫人（お江の方、家光の母）の靈屋を建長寺が譲り受けました。仏殿前の庭園の柏槇は開山禪師のお手植え、古木は樹齡七百五十年です。

























法堂(重要文化財)

これは法堂/重要文化財







はっとう
法堂
(国重要文化財)

“はっとう”と読みます。昔は、建長寺全体が修行道場であり、僧侶全員がこの法堂に集まって、住持の上堂説法を聞き、修行の眼目としました。三八八人の僧侶がいた記録があります。現在の道場は、開山堂のある西来庵に移っています。

この建物は江戸時代・文化十一年（一八一四）に再建されたものです。関東最大の法堂で、現在は千手観音を本尊としています。天井の雲龍図は創建七百五十年を記念して、小泉淳作画伯によって描かれました。

文化十一年(1814年)に再建されたもの

















唐門(重要文化財)

正面は唐門/重要文化財







後ろは龍王殿・方丈/1943年、京都から移築したもの



銅鐘(国宝)

鐘楼





ぼんしょう
梵鐘

(重さは2.7t 国宝)

この鐘は、北条時頼公の
発願により広く施主をつの
り、開山大覚禅師(蘭溪道
隆)の銘文、関東鑄物師の
筆頭である物部重光によつ
て建長七年(一二五五)に
鑄造されました。銘文の中
に、「建長禅寺」とありま
す。

左奥は、西来庵。開山大
覚禅師を祀る塔頭。現在は
建長寺派専門道場を兼ね、
雲水の修行道場です。

(非公開)

建長七年(1255年)鑄造の梵鐘/国宝









その他

大庫裏







